

水の都・蘇州

タクシーを降りるとムーとした熱い空気が身体を包み込んだ。頭がポートしてくる。普段はゆったりとした長い歴史の息遣いが聞こえてくるような町も、この夏の厳しい気候は私にとって少々きつく感じられた。日本ではクーラーのある生活で夏を乗り越えてきたが、慣れない中国での旅に体力は限界に近付いていた。

近くには豊かな水をたたえる太湖があり、北から西にかけて長江が流れる。蘇州の町全体が縦横無尽に走る運河に囲まれた水の都であった。古来より人間にとって無くてはならない水に恵まれたことは、町を発展させる大事な要素であった。水の都・大阪は過去の話。ここは「東洋のベニス」と呼ばれるに相応しい素敵な町であった。

運河には観光用の遊覧船が運航され、我々を優雅なひと時へ案内してくれた。船に乗っていると川面の涼しい風で暑さを忘れさせてくれる。そして歴史を感じさせる建物。白い壁、黒い瓦の家並みが続く。いくつも懸る橋もそれぞれがユニークな形、素材が使われており目を楽しませてくれる。

そして町中でも駅の構内でも列車の中でもそうだったが、この運河にも清掃をする船が絶えず仕事に精を出していた。そして家の修理に励む男たちの姿。母親の周りで子供が遊び、川で洗濯をする女性が手を振ってくれた。家の中の様子も垣間見る場面もあった。それは庶民生活の息遣いが感じられる素敵なクルージングであった。私は暑さしのぎもあってこの蘇州で二か所のクルーズを楽しんだ。

撮影 2010 年夏

